かんがえる、こうどうする、たのしむ！

NPO法人 Kacotam

特定非営利活動法人 Kacotam

活動報告書2018

- インタビュー
- 【特集】子どもの「やりたい」をカタチにするプロジェクト
- 2018年の活動を振り返って
- 支援の輪
- 地域と一体となった活動を目指して

やりたいことをできるというか、自分の空間がある場所。

勉強のことはもちろん、たくさんの人と関われることが楽しいので来ています。ここ何年かで新しい人が担当になることも増えてきて、色々な考えを聞けるようになり、さらに楽しくなりました。あとは、子どもの興味に沿ったイベントが増えましたよね。自分は忙しくなってしまったのでなかなか行けていないけど、月に何回かそうしたイベントがあって、楽しそうだなって思います。

カコタムに来て、前より話すのが得意になりました。今までも別に引っ込み思案というわけじゃなかったんですけど、やっぱり昔は話すときに考えが詰まって「ん？」となってしまうことがあって。今は大学生や社会人の方と話すことが多いので、しっかりと考えて話せるようになった気がします。私以外の子を見ていても思うんですけど、大学生や社会人の方が話しやすく進めてくれるのでスムーズに話していけるのかなと。

カコタムは、勉強を教えてもらえる場所というのはもちろんですが、第一に、やりたいことをできるというか、自分の空間がある場所だと思っています。私も、看護師の学校に通ってる人と話して、色々教えてもらいました。それによって、自分の夢をちゃんと明確にできました。

学校生活で味わえないことができるので、色々なイベントに参加してみると楽しいと思います。

Aさん（高校３年生）
中学3年生からスタサポ事業エルプラザ拠点へ参加。学校の部活動（放送局）での経験を活かし、Kacotamの活動報告会で司会を務めたことがある。

「学校」と「相棒との時間」を足して２で割ったのが「ここ」。

絵を描くのが好きだけど家では描けなくて、でもカコタムに来たときは、気にせずに描けるのがいい。勉強時間も増やせるし、他の人との交流のために来てるって感じ。学校でも家でも自分から喋ることはほとんどなくて、カコタムでも初めはそうだった。でもだんだん、ここで静かに黙ってる必要は無いんだなと思えるようになった。カコタムは行くも行かないも自分で決めることができるしね。

Bさん（中学３年生）
中学１年生からスタサポ事業エルプラザ拠点等へ参加。カコタ部のイラストサークルに所属している。

大人と一対一で接することができるのは、すごくいいなって思います。

自分から率先して勉強するのは難しいし、一対一でやる学ボラなら勉強できるかなと思って始めました。テストの点も上がったし、結果を一緒に見てどんなところが苦手だったのか、何を重点的に勉強したらいいか、などを考えたりして。それに、大人と一対一で接することができるのは、社会勉強にもなるのですごくいいなって思います。中3の時は受験勉強の時間として使っていたけど、今後は面接練習をしたり、自分が知らない世界の話、社会に出るのに必要な話を聞いたりしたいです。

C君（高校１年生）
児童養護施設で生活。中学２年生から学ボラを利用開始。高校入学後も次の目標に向け、継続して利用している。

子どもやメンバーと関わる中で、自分の新しい窓が開けた気がします。

子どもの「やりたい」をカタチにするプロジェクトでは、いろんな技術があるんだよ、こんなことができたらきっと楽しいよ、ということを伝えていけたらいいなと思います。

子どもから想定外の話題が出てくることもあるので、どんな引き出しを用意すればいいかな、と悩むことはあります。でも、周りのメンバーのやり方を見て、なるほどこういう方法もあるんだ、と発見できるのが面白いですね。

浅尾さん（社会人・活動歴６ヶ月）
スタサポ事業での活動の他、子どもの「やりたい」をカタチにするプロジェクトの中心メンバーとして活動している。

色々な視点から考えられて受容してくれる人が多いと思います。

子どもにとっても、メンバーにとっても、素でいられる場所なのかなと。背景が多様だから、この人には趣味の話、この人には学校の話をしよう、とすることもできる。わからない問題があっても、他のメンバーが協力してくれたり。カコタムは単に勉強するだけの場所じゃなくて、悩みを話したり、イベントを通して他の人とも知り合ったり、お互いの価値観に触れながら学び合える場だと思います。

上野さん（大学生・活動歴３年５ヶ月）
大学１年生から継続的に活動に参加し、スタサポ事業、学ボラ事業、各種イベント運営等、様々な活動に参加している。

色々なことに触れられて、経験できて、獲得できる環境。

高校生までは利用者としてカコタムに関わっていましたが、大学生や社会人と身近なところで関わることができた、というのが一番印象に残っています。毎回担当が変わるごとに、学校に行っているだけでは聞けないような話も聞けました。今は大学生になって、メンバーとしてカコタムに関わっています。メンバーが、思っていた以上に子どもをよく観察していることに一番驚きました。

自分の周りの大学生を見ていると、とりあえず大学に行くか、みたいな人が多いと感じます。どうせ行くなら、好きなことを極めた方が、人生も楽しくなるだろうなと思うんです。だから、子どものうちに色々な経験をできていた方が、有益だと思います。だけど、そういう機会を得られる場所ってなかなか無いんですよ。色々なことに挑戦させてくれる親ばかりではないから、興味を持ったものに触れる機会を親以外の何かで補えるといいなと思っているんです。カコタムは、そういうことをしている。子どもに負担をかけずに、楽しく、例えばカメラで写真を撮るのはこういうことなんだ、と学ばせてくれる。楽器に触れたりすることができる。そういう環境は、とてもうらやましいです。

カコタムは、自分から経験しにいく、獲得しにいく、という姿勢で挑むことでより大きいリターンがある場所だと思います。

市呂さん（大学生・活動歴８ヶ月）
中学２年生の頃からカコタムを利用し、現在は関東の大学に進学。帰省時はメンバーとしてスタサポ事業等に参加している。大学では自身が考えた学習支援活動も展開。

特集 子どもの「やりたい」をカタチにするプロジェクト

「子どもの『やりたい』をカタチにするプロジェクト」とは、子どもとの関わりの中で聞いたり見つけ出したりした「やりたい」を実際に行ったり、「好き・興味」を深める機会を作ったりする活動です。

当年は、子どもの「やりたい」「好き・興味」を集約・整理するしくみを整え、より多くの子どもの声に向き合い、カタチにしていけるように取り組みました。その結果、13企画の実施を検討し、うち11企画を行うことができました。

ファイターズ選手に会いに行こう

小学生から高校生までの子どもとともに、北海道日本ハムファイターズの球場見学に行きました。好きな選手を間近で見ることができ、興奮した様子で写真を撮っていました。

バケツゼリーを作りたい

中学3年生Aさんの「バケツゼリーを作りたい」に応え、通常より何倍も大きいバケツゼリーを作りました。ゼラチンの量が足りず、崩れてしまった部分もありましたが、美味しく作ることができました。

ハリーポッターとゆるきちの部屋

小説『ハリー・ポッター』が好きな子どもやメンバーが集まり、その魅力や魔法のかけ方、杖の使い方などを語り合いました。本場イギリスに思いを馳せ、手作りスコーンと紅茶も楽しみました。

星空☆大撮影会　写真E

様々な国で星の撮影をされている方をお招きし、今までに撮影した天体に関する話を聞きました。その後、外に出て、上手な星の撮り方を教わりながら、曇間に現れる星の撮影に挑みました。

プロから学ぶメイク　写真B

札幌ビューティーアート専門学校にご協力いただき、メイク体験をしました。講師から「立体小顔メイク」や、プロのメイク用品の使い方のコツを教わり、様々なメイクへの興味が湧いたようでした。

コマ撮り動画に挑戦　写真D

「Youtuberになりたい」「動画が好き」という声に応え、コマ撮り動画に挑戦しました。棒人間等を素材に、少しずつ位置やポーズを変えながら写真撮影を繰り返し、最後につなぎ合わせて一つの動画を作りました。

北大博物館へ行こう　写真C

北海道大学総合博物館に行き、ボランティアの方に展示物などについての解説をしていただきました。子どもは、真剣に解説を聞き、驚きや発見をメンバーと共有しながら、ワークシートに書きとめていました。

カコタム運動会　写真A

「カコタムのみんなで運動をしたい」という声に応え、美香保公園でドッジボールや鬼ごっこをしました。学習支援で関わる子どもだけではなく、近所に住んでいる子どもも参加し、みんなで楽しく汗を流しました。

巨大折り鶴を折りたい

高校３年生Ｂさんの「部屋いっぱいの紙で、折り鶴を作りたい」という声に応え、巨大折り鶴を作る企画を実施しました。

通常の大きさの折り紙では難なく折ることができる折り鶴ですが、3m四方の大きさの紙では手順すら迷ってしまい、「次はここを折るんだっけ？」「いや、その前にこう折ると思うよ」と確認し合うほどでした。紙を袋状に広げる過程では、身長の高い人が紙を持ち上げ、小柄な人が紙の隙間に入って

隅々までしっかり紙が広がるよう協力し、工夫を凝らして折っていきました。

Ｂさんは、想像以上に大がかりな作業だったことに驚いているようでしたが、「小さい頃からやってみたいことだったので完成できて嬉しかった、夢って叶うものなんだなって思った」と言っていました。

微生物の勉強をしたい

中学１年生Ｃ君から「微生物に興味がある」という声がありました。しかし、Ｃ君の中でも興味の方向性が曖昧な状況のため、当年は顕微鏡観察をしたり、微生物の研究をしている森川研究室※1の訪問をしたりしました。

顕微鏡観察では、使い慣れない複雑な顕微鏡操作やプレパラート作りに苦戦していましたが、メンバーのサポートを得て、観察に没頭していました。

研究室訪問では、微生物に関する様々な話を聞いたほか、実験室の見学や微生物培養操作の体験をしました。初めての経験の数々に、Ｃ君はしみじみと「すごかった」と感想を述べていました。

引き続き、外部機関の協力を得ながら、「もっと色々な実験をしてみたい」というＣ君の声に応えていきます。

※1：北海道大学地球環境科学研究院 環境生物科学部門 環境分子生物学分野

オリジナル定規をつくろう

「文房具が好き」「もの作りがしたい」という声に応え、「オリジナル定規を作ろう」企画を実施しました。

株式会社シェアデザイン様から工房とレーザーカッター、札幌市内の木材店から材料の木材を無償でご提供していただきました。専用のソフトを使ったデザインデータの作成に悪戦苦闘しながら、自分が思い描いたデザインに挑戦しました。子どもはデザインに夢中になり、「もっとこんなデザインにしたい」「裏表にデザインしたい」とどんどんアイデアを膨らませていました。また、自分でデザインした定規がレーザーカッターで切削されていく様子をワクワクしながら見守っていました。

できあがった定規を見て、「イメージ通りに作るにはどうしたらいいだろう？」などと意見交換をして盛り上がりました。

2018年の活動を振り返って

児童養護施設
柏葉荘と協働事業開始

児童養護施設「柏葉荘」と協働し、施設近隣の生活困窮世帯の子どもを対象とした学びの場づくりを開始しました。子どもへの学習支援だけでなく、家庭支援も含めた包括的な支援を行います。柏葉荘は家庭への支援を、Kacotamは学習支援の現場を担うことで、それぞれの団体の強みを生かして事業を進めています。

▼柏葉荘との協働事業の様子（学習タイム）

学ボラ事業における
訪問施設の拡大

自立援助ホーム「シーズ南平岸」、児童心理治療センター「ここらぽ」で、大学受験に向けた学習支援活動を開始しました。これにより、児童福祉施設への訪問型学習支援活動「学ボラ」事業において、札幌市内の社会的養護にかかわる児童福祉施設の全種へ訪問するようになりました。

さっぽろ学び直しネットワークに参画

文部科学省「平成30年度『地域の教育資源を活用した教育格差解消プラン』」に基づく、「さっぽろ学びなおしネットワーク」の参加団体としての活動を開始しました。中学卒業後から20代前半の若者を対象に、高等学校卒業程度認定試験の合格や高等学校入学を目標とした学習サポートを行っています。

アドボカシー活動チームの立ち上げ

学びの機会格差問題について、学習支援で関わる子ども・家庭の声を社会に発信したり、子どもを取り巻く現状の発信や行政への政策提言をしたりすることを目的に、アドボカシー活動チームを発足させました。内部調査、外部調査、団体内外への学習会を行います。

数字で見る 2018 年の活動

利用者データ

拠点型学習支援
スタサポ
延べ 2,466 人

訪問型学習支援
学ボラ
41 人
11 施設

中高生の居場所
ゆるきち
延べ 496 人

学習環境データ

拠点型学習支援
スタサポ
延べ 2,366人 UP 107%
延べ 655時間 UP 120%

訪問型学習支援
学ボラ
33人
延べ 539 時間

各種イベント
27企画

実施したイベント

巨大人生ゲーム / 円山動物園企画 / 美術館企画 / 北大超解像顕微鏡企画 / 料理教室 / 自然体験学習 / プログラミング体験会 / お仕事カコタム「建築士」/ お仕事カコタム「栄養士」/ 夏期講習 / 太陽光発電のしくみ / ペットボトルロケット / 料理の化学実験 など

保護者の声

学校へ行けなくなった息子にとって貴重な居場所です。足が動かなくなり頑張れなくなりましたが、カコタムさんのおかげで充電中です。

学校と家との往復の生活なので、家・学校以外での時間は子どもにとってとても楽しい時間なのだと思います。自分ではどう勉強を進めていいかわからないときでも、たくさんの先生にアドバイスいただいているみたいなのでとても助かります。

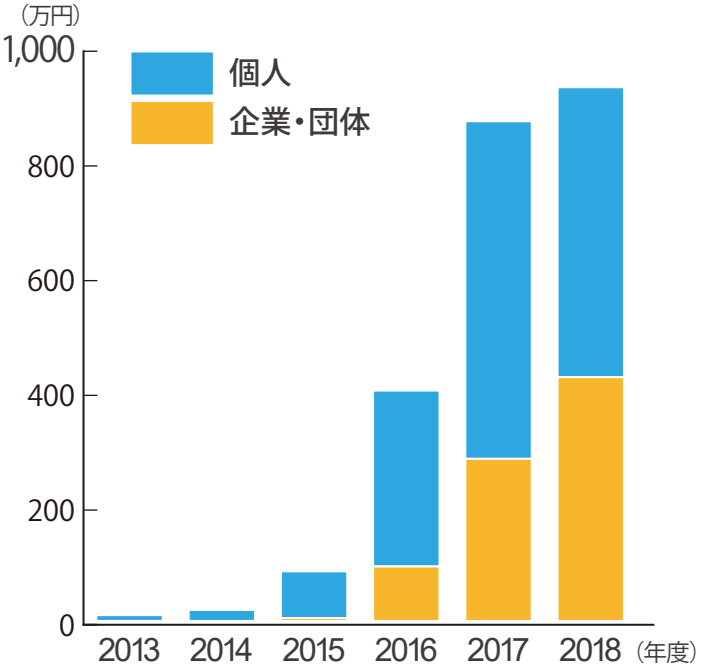
カコタムを利用するようになってから、勉強に対する姿勢が積極的になった気がします。本当に助かっています。ありがとうございます。

支援の輪

当年もKacotamを応援していただき、ありがとうございました。皆さまのご支援により、継続して活動することができています。当年は約926万円の寄付金が集まり、お米や野菜などの物資によるご支援もいただきました。

寄付金額

約926万円（前年比106%）



寄付金以外での寄付 ※敬称略・順不同

- ハピぼんによる古本募金（9,333 円）
- 書き損じ未使用切手による寄付（50,980 円）
- 北海道日本ハムファイターズ無料観戦チケット
- ソフトバンク「かざして募金」
- 東川町、JA ひがしかわ よりお米提供
- おてらおやつクラブによるお菓子等寄付
- 株式会社ハマーズよりパソコンの寄付
- 宮川農園 よりメロンの寄付
- AppleGifter よりりんごの寄付
- 北海道コカ・コーラボトリング株式会社より飲料水の寄付

協力団体等 ※敬称略・順不同

- ハピぼん事務局
- しんぐるまざあずふぉーらむ北海道
- 藤女子大学（隈元ゼミ）
- スコーレユウ
- ＮＰＯ法人ねっこぼっこのいえ
- ＮＰＯ法人陽だまりの家
- あさぶ商店街
- 琴似連合町内会
- 手稲さと川探検隊

寄付金をいただいた企業・団体 ※敬称略・順不同

札幌西ライオンズクラブ

医療法人社団 平成醫塾 苫小牧東病院

株式会社 ワークスペース工房

札幌ライラック ライオンズクラブ

RACKUNE

FRSコーポレーション株式会社 Field ResearcherS corporation

Le Ruban d'honneur

KDDI

札幌中島ライオンズクラブ

KIWANIS INTERNATIONAL

国際ソロプチミスト札幌

59. 北海道生活協同組合連合会

地域と一体となった活動を目指して

Kacotamは、これまで他団体と協力しながら、延べ約10,000名の子どもと関わってきました。しかし、私たちが関わっている子どもは、ほんの一部にすぎません。必要としている子どもへ今まで以上に、学びの機会を届けるためには、各地域で子どもと多様な接点を持つことが重要と考えています。

そのため2019年は、学校や町内会、行政等との連携を強化します。例えば、中高生が自由に過ごせる空間として開設している「ゆるきち」では、町内会活動への参加やイベント実施などを通して地域の役割を担っていきます。地域との連携が進むことで、Kacotamだけでは応えきれない、一人一人の子どものニーズを把握し、対応できるようになります。

最終的には、活動拠点を中心にしつつも、地域全体がすべての子どもにとって学びの機会が得られる環境となるよう地域づくりを進めていきます。

▲サッポロスマイルアワード 2018 特別賞受賞
（写真右側・Kacotam 理事長 高橋勇造）

発　　行　特定非営利活動法人Kacotam
活動報告書制作委員会
（高橋・尾﨑・木村・黒須・斉藤・中村・星野・吉田）

発 行 日　2019年3月31日